

インタビュー



SITCベトナム ジェネラルダイレクター 孫永利氏

近年、アジア域内航路を強化しているSITCコンテナラインズ。そのうちベトナム事業は2009年にハイフォンに現地法人を設立し、今年6年目を迎えた。航路網も拡充しており、ハイフォン、ホーチミンに加え、昨年は中部のタンソン港への配船を開始した。顧客志向に基づき、多頻度・細目のサービスを提供し、成長を続けている。SITCベトナムの孫永利氏にインタビュー(GD)にベトナム事業の概況と今後の展開を聞いた。(文中敬称略、聞き手・中村晃輔)

SITCのベトナム 発着貨物の推移と今後の見通しは。 孫 昨年はベトナム発の輸出が15%増、ベトナム向けの輸入が20%の成長と好調だった。特に北部の成長が南部に比べて大きい。昨年始めた中部のタンソン港の寄港も影響している。 国別では、日本向けの輸出は消費財関連を中心に相対的に伸びている。韓国に対しては、ベトナムが韓国に輸出する輸送手段として、ベトナム航路が過渡期を経て、今年に入り、MSC

顧客志向でサービスリーダーに

SITCのベトナム 事業の概要と今後の方針は。 孫 現在のベトナム発着サービスは計22便。SITCが配船するアジアの主要港は全てカバーしている。ベトナムの港湾別に見ると、ハイフォン航路が過渡期を経て、今年に入り、MSCから1万1000TEU型コンテナ船4隻を受注予定している。大船船で線を進めている。 孫 アジア域内では今後ますます競争が激しくなる。しかし、SITCは運賃価格の競争ではなく、サービス面で競争していきたいと考えている。SITCは現在、ベトナムにおいて4つの会社を持つ。海上輸送を担うSITCベトナム

CMACGM 2万TEU型3隻、17年に投入か

海外紙によると、CMACGMは韓国の韓進重工と2万TEU型コンテナ船3隻で新造商談を進めていると報じられている。2017年船台が商談の対象で、両社は間もなくLOI(内書)を交わすとみられている。 CMACGMは韓国の韓進重工と2万TEU型コンテナ船3隻で新造商談を進めていると報じられている。2017年船台が商談の対象で、両社は間もなくLOI(内書)を交わすとみられている。 CMACGMは韓国の韓進重工と2万TEU型コンテナ船3隻で新造商談を進めていると報じられている。2017年船台が商談の対象で、両社は間もなくLOI(内書)を交わすとみられている。

新造船発注を再開 Tスライズ 1800TEU型4隻

Tスライズの陳徳翔社長は、新造船発注を再開する意向を示している。同社は現在、運航船4隻で25位の運航船は40隻で、うち3隻が1800TEU型船3隻と1800TEU型船1隻の計4隻を発注を計画している。市場環境の悪化により、過去数年間は発注が低迷していたが、比較的低コストで運航船を確保することができた。ただ、陳社長は昨年、本紙のインタビューに対し「中長期的には、やはりある程度自社所有の船隊整備を行わなければならない」と考えている。船価も低くなっており、また燃費性能も優れている。船価も低くなっており、また燃費性能も優れている。船価も低くなっており、また燃費性能も優れている。

戦略港湾・京浜港 ラウンドユース、国の後押しを

国土交通省関東地方整備局は、先月3日に「第4回京浜港ラウンドユース」を開催した。第4回京浜港ラウンドユースは、京浜港の戦略港湾としての役割を強化するため、関係各機関が連携して取り組むこととしている。 京浜港は、日本の主要な港湾の一つであり、国際競争力を高めるため、戦略港湾として位置づけられている。国土交通省は、京浜港の発展を支援するために、ラウンドユースを開催している。これは、関係各機関が連携して取り組むことで、京浜港の戦略港湾としての役割を強化することを目指す。 京浜港は、日本の主要な港湾の一つであり、国際競争力を高めるため、戦略港湾として位置づけられている。国土交通省は、京浜港の発展を支援するために、ラウンドユースを開催している。これは、関係各機関が連携して取り組むことで、京浜港の戦略港湾としての役割を強化することを目指す。

阪神国際港務、設立記念 767名出席

基盤委員会の安部正一共同委員長が、設立記念式典に出席し、祝辞を述べた。式典には、関係各機関の代表者約767名が出席した。 阪神国際港務は、京浜港の戦略港湾としての役割を強化するために設立された。設立記念式典は、関係各機関の代表者約767名が出席し、祝辞を述べた。式典には、関係各機関の代表者約767名が出席した。 阪神国際港務は、京浜港の戦略港湾としての役割を強化するために設立された。設立記念式典は、関係各機関の代表者約767名が出席し、祝辞を述べた。式典には、関係各機関の代表者約767名が出席した。

川崎汽船 CO2半減へ燃料転換など推進 「環境ビジョン2050」策定

川崎汽船は17日、CO2排出量の半減や、エネルギー過半の新エネルギー転換、生態系保護の業界トップなど環境対策の2050年の目標に掲げた「環境ビジョン2050」を発表した。有坂俊一常務執行役員「写真」は記者団に対し「増加する世界人口や新興国を中心とした経済成長、海運の増加から、環境分野への課題は今後付加価値を創出するための成長機会」と指摘し、環境分野への課題は今後付加価値を創出するための成長機会と指摘した。 川崎汽船は17日、CO2排出量の半減や、エネルギー過半の新エネルギー転換、生態系保護の業界トップなど環境対策の2050年の目標に掲げた「環境ビジョン2050」を発表した。有坂俊一常務執行役員「写真」は記者団に対し「増加する世界人口や新興国を中心とした経済成長、海運の増加から、環境分野への課題は今後付加価値を創出するための成長機会」と指摘し、環境分野への課題は今後付加価値を創出するための成長機会と指摘した。

環境ビジョン2050 策定

中計には、バラスト水処理装置の設置費用を主体とした環境対応投資に500億円を投じる計画も盛り込まれている。環境ビジョン2050は、中期計画とは別に、50年の目標に向けて未来社会と同一水準の環境分野の課題を明確化する。環境ビジョン2050は、中期計画とは別に、50年の目標に向けて未来社会と同一水準の環境分野の課題を明確化する。環境ビジョン2050は、中期計画とは別に、50年の目標に向けて未来社会と同一水準の環境分野の課題を明確化する。

50年までの環境ビジョン 中期経営計画の最終版

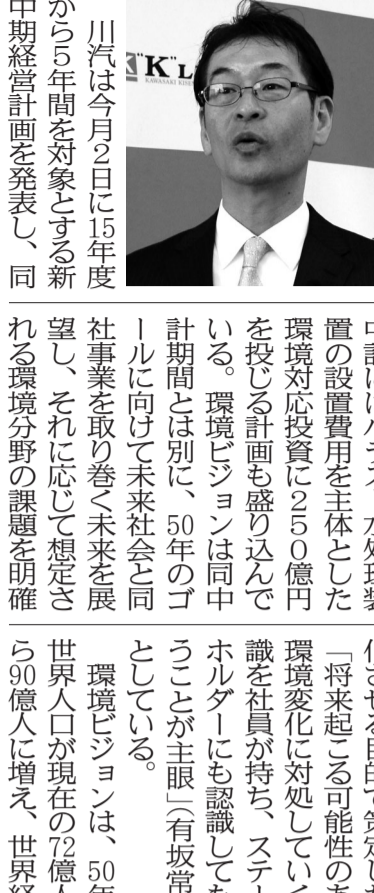
川崎汽船は16年竣工予定で、7500トン積み自動車船を2隻発注済み。最先端の技術を結集し、省エネと環境保全対応を追求する「Drive Green Project」の一環で建造する。竣工後は3.5年かけて試験航海を実施する計画。 川崎汽船は16年竣工予定で、7500トン積み自動車船を2隻発注済み。最先端の技術を結集し、省エネと環境保全対応を追求する「Drive Green Project」の一環で建造する。竣工後は3.5年かけて試験航海を実施する計画。 川崎汽船は16年竣工予定で、7500トン積み自動車船を2隻発注済み。最先端の技術を結集し、省エネと環境保全対応を追求する「Drive Green Project」の一環で建造する。

インターエイシアライン HPで本船動静情報を公開

インターエイシアラインは3月から、自社のホームページ(http://www.aisa.co.jp)上で本船動静をリアルタイムで確認できる「Vessel Schedule Service」を開始した。ホームページのコンテンツ上にある「本船・港別最新動静・換算情報」を選択すると、本

人事

◇シーケーマタイム(新役員体制) (2月27日)代表取締役社長 福田正二 昇任▽代表取締役(非常勤) 金志修 取締役(大阪支店長) 新納唯司▽同(非常勤) 花岡英夫



川崎汽船は今月2日に15年度から5年間を対象とする新中期経営計画を発表し、同社事業を取り巻く未来を展望し、それに伴って想定される環境分野の課題を明確化する。環境ビジョン2050は、50年現在の72億人から90億人に増え、世界経済

は、特にタンクはままだコンテナ船を持っていないので、ニーズがあれば作りたいと考えている。また、ハイフォンの倉庫では現在、保税の申請を行っており、認可されれば保税輸送もできるようになる。SITCベトナムの強みは、SITCのDNAの中には「顧客志向」という重要な項目がある。ベトナムでも強化しており、顧客とウィンウィン関係になれるよう努力している。

客に対しては、SITCジャパンと連携してニーズに応えていく。 SITCベトナムは今年6年目になるが、社員平均年齢が28歳と非常に若い会社。サービス品質について教育もしっかり行っている。これにより日本人駐在員だけでなく、現場のベトナム人スタッフについてもきめ細かいサービスを提供する意識を持たせている。

日本列島 地方53港縦断. 日刊CARGO 臨時増刊号 Aug.2014 8月20日発行 定価1,389円(税別). 地方港特集 日刊CARGO 電子版 http://www.daily-cargo.com/